

日本感情心理学会第 28 回大会

大会プログラム



主催：就実大学

研究発表・オンライン質疑応答期間

2020年6月20日～6月30日





ご挨拶

日本感情心理学会第 28 回大会を就実大学がお引き受けすることとなりました。どうぞよろしくお願いたします。COVID-19 の影響により、オンラインでの研究発表および質疑応答のみの開催となりましたが、皆さまの研究発表や情報交換を支える場が提供できるように、関係者一同、運営に努めてまいります。

開催形態の変更に伴い、大会期間も 6 月 20 日から 6 月 30 日に変更となりました。この期間に、活発な質疑応答が行われることを期待しております。また、こうした開催形態にも関わらず、研究発表をお申込みいただいた皆様には、心より感謝を申し上げます。

今大会では当初「感性と感情」というテーマを掲げ、それに相応しいプログラム編成となるよう、委員一同努力して参りました。しかしながら、特別講演やシンポジウム等、関連する行事は中止となり、この点は大変無念なことでありました。しかしながら、申し込まれた研究発表の内容を見ますと、その充実ぶりに勇気づけられる思いです。感情心理学研究者の底力を見せていただきました。重ねてお礼を申し上げます。

決して望ましい経緯ではありませんでしたが、これは学会大会が新たな環境に適応する過程であるとも考えられます。その点で、日本感情心理学会初のオンライン開催が、今後の大会運営にも活かされることを祈ります。今大会について、何かお感じになったことがありましたら、是非ともお聞かせください。よろしくお願い申し上げます。

感染症の脅威がいつ去るか、未だ不透明な情勢であります。皆様方におかれましても、なにとぞご自愛いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ながら、日本感情心理学会第 28 回大会からのご挨拶とさせていただきます。

日本感情心理学会第 28 回大会実行委員会
委員長 岩佐和典



大会についてのご案内

1. 今大会の開催形態および行事

大会ホームページ上に資料をアップロードする形で研究発表を行い、オンラインでの質疑応答を一定期間設けます（6月20日～30日）。オンラインの質疑応答には、日本感情心理学会会員であれば、どなたでも参加できます。何らかの書類申請や記録等で発表日が必要な場合は、便宜的に「2020年6月30日」と記載してください。

シンポジウム、特別講演、総会、理事会、懇親会等、会場に集合する形で行う学会行事はすべて中止となりました。理事会、編集委員会、大会引継ぎ会の審議事項については、メールおよびポータルを使って行う予定です。総会の審議事項については、後日ニュースレター等で会員に周知し、質問・意見を求める期間を設けることで、総会承認に代える予定です。

2. 大会参加および発表の申込について

今大会は、研究発表者のみを大会参加者とします。大会参加のみの申込は受け付けておりませんので、ご注意ください。日本感情心理学会として、発表したことを公式に認める条件は以下の通りです。

①申込期限

4月30日（木）24時までに Web 上で研究発表申込を行ったこと

②参加費納入

5月11日（月）24時までに大会参加費を納入したこと

③発表抄録提出

6月12日（金）24時までに発表抄録を提出したこと

3. 大会参加費

会員区分		参加費
正会員	一般	6,000円
	院生	5,000円
非会員	一般	7,000円
	院生	6,000円
学生	会員	1,000円
	非会員	1,500円

研究発表および質疑応答に関するご案内

1. オンライン研究発表

今大会の研究発表は、大会 HP 上に資料をアップロードする形のオンライン研究発表のみとします。提出された研究発表資料は、PDF ファイルにまとめて大会 HP 上にアップロードします。

2. 研究発表および質疑応答の期間

研究発表の資料は、準備が整い次第（6月19日〔金〕を予定）大会 HP にアップロードします。オンラインでの質疑応答期間は6月20日（土）から6月30日（火）です。この期間中、発表者はメールによる質疑に対して応答してください。なお別途、発表者各自の裁量と責任のもとで各種ソーシャルメディア上にて質疑応答を行うことについては、これを妨げるものではありません（ただし、学会・大会によるサポートはございません）。今大会の参加者および日本感情心理学会の会員であれば、どなたでも質疑応答に参加できます。

3. 抄録および追加資料の提出

今大会では、発表抄録を期限までに提出いただくことが、学会として発表した事実を公式に認める条件の一つとなっております。提出期限および提出方法の詳細は以下の通りです。スケジュールの関係上、締切の延長はございませんので、締切厳守をお願い申し上げます。

提出期限： 2020年6月12日（金）24時

送付先： 日本感情心理学会第28回大会実行委員会
jsre28th@gmail.com（@を半角に変更して送信してください）

抄録様式： 大会 HP（<http://jsre.wdc-jp.com/conf/2020/submit.html>）をご確認下さい。

追加資料： 必要であれば発表抄録以外の資料（例えば、発表抄録に入りきらない図表や方法に関する補足説明等）についても、A4用紙1枚分まで追加して提出することを可とします（ただし、この追加資料はサプリメント号には掲載されません）。当該の研究発表に関する資料であることが分かるよう、抄録と資料のファイル名には第一著者の姓（ローマ字表記）を付け加えて下さい（例：[abstract_lwasa], [suppl_lwasa]）。

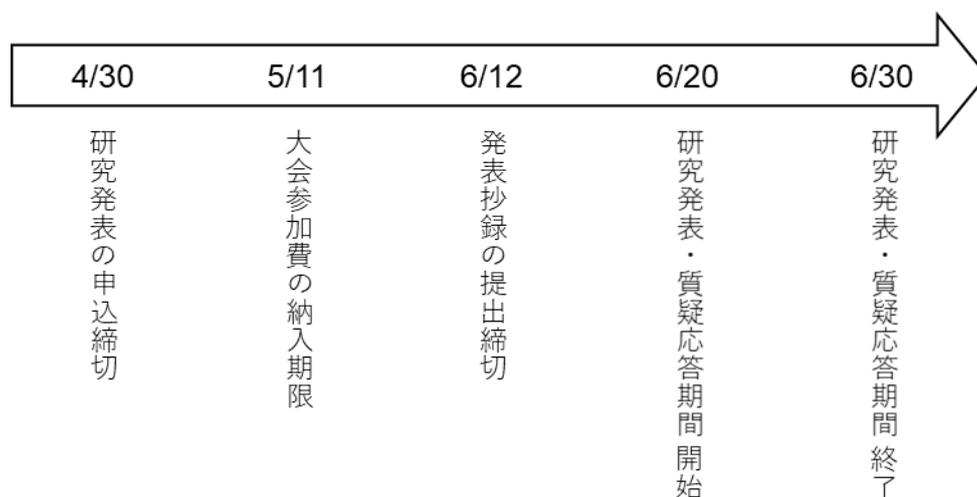
4. 大会発表賞について

- ①大会発表賞については、発表抄録に基づいて「優秀研究賞」「独創研究賞」の選考を通常通り行います(ただし、「グッドプレゼンテーション賞」は中止とします)。また、「精励発表賞」も通常通り受け付けます(受付期限：7月31日[金])。
- ②第28回大会各発表賞の表彰は、受賞者決定後本人に通知し、メールニュースで公表するとともに、次年度の年次大会(第29回大会)の総会および懇親会で行います。なお、受賞者は次年度大会の懇親会参加費が免除されます。

*精励発表賞のお知らせと申請フォームについては、大会HPをご確認下さい。

<http://jsre.wdc-jp.com/conf/2020/submit.html>

5. 研究発表・質疑応答までのスケジュール



6. 大会に関する連絡先

日本感情心理学会第28回大会実行委員会

〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原1-6-1 就実大学教務課分室内

Tel / 086-271-8335 (岩佐) e-mail / jsre28th@gmail.com

発表プログラム

注) #印は日本感情心理学会非会員であることを示す

一般研究発表

オンラインでの質疑応答期間：6月20日～30日

PS0001. 顔感情認知能力の高い人ほど極端な顔特性推論をおこないやすい

鈴木 敦命 (東京大学 大学院人文社会系研究科 心理学研究室)

人間は他者の顔から感情を読み取ることや特性を推測することを試みる。前者の顔感情認知はコミュニケーションの基盤、後者の顔特性推論は偏見の一種と各々みなされ、同じ顔からの対人認知であっても反対の社会的評価を受ける。しかし、感情の過剰一般化理論によると両者には正の相関関係が予測される。本研究はこの予測を検証し、顔感情認知能力の高い人ほど極端な顔特性推論をおこないやすいという傾向を示す結果を得た。

PS0002. 清浄志向／穢れ忌避 (POPA)と日本的宗教心

—空気信仰、言霊信仰、自然一番主義との関連—

北村 英哉 (東洋大学 社会学部)

松尾 朗子# (名古屋大学大学院環境学研究科)

穢れを忌避することは広く世界に見られるが、それ以外に日本での宗教心の特徴として、「自然の流れが一番」であると考えられる見方がある。さらに、望んだこと、言ったことが魔術的に実現してしまうと恐れ、期待してしまう「言霊信仰」、場の空気を尊重し、その空気に従うべきとする「空気信仰」が見られる。これらの宗教心と、清浄志向／穢れ忌避尺度 (POPA) の各因子との関係を検討し、中程度の正相関関係が観察された。

PS0003. 日本人は表情から本音と建前の感情をどのように認知するのか？

—喜びと怒りの段階的モーフィング表情画像を用いた検討—

曹 蓮 (東京学芸大学)

杉森 伸吉# (東京学芸大学)

日本人はネガティブな表情表出を抑制したり、微笑みなどのポジティブな表情で隠したりする傾向がある。このような表示規則を持っている日本人は、表情から本音と建前の感情をどのように認知するのかについて検討するために以下の実験を実施した。具体的には無表情から怒りあるいは喜びの感情を明確に表す表情までの静止 Morphing 画像を刺激として用い、感情種類の同定課題および感情強度の評定課題を実施した。

PS0004. 他者のパフォーマンス観察時の注意の向け方が自身の「あがり」に与える影響

小笠原 香苗（総合研究大学院大学生命科学研究科）

清河 幸子#（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）

本研究では、制御焦点と注意の向け方が他者の失敗を見た後の「あがり」に与える影響を検討した。他者のスピーチ映像の視聴後に参加者自身もスピーチを行う場面を設定した。制御焦点により参加者を2群（促進焦点／防止焦点）にわけ、他者のスピーチ映像視聴時の注意の向け方が異なる2条件（自己注意／他者注意）での比較を行った。その結果、注意の向け方によって他者の失敗から受ける影響が異なることが示唆された。

PS0005. 他者が受けた恩恵についての情報が自身への恩恵に対する感謝および行動に及ぼす影響

山本 晶友（上智大学大学院 総合人間科学研究科）

樋口 匡貴（上智大学 総合人間科学部）

他者がより大きい恩恵を受けた事例や、恩恵提供を拒否された事例を知るだけで、自分が受けた恩恵に対する感謝感情、返礼行動、感謝表出の生じ方が変化するか検討した。過去の実験で大きい恩恵提供がなされた事例、または恩恵提供がなされなかった事例を伝える実験操作の後に、実験参加者自身に小さい恩恵の受領をさせ、感謝・返礼行動・感謝表出を測定した。その結果、いずれの反応も、生じる程度が過去の事例に影響されなかった。

PS0006. 集中線は驚きを強める

—線画表情の感情認知における効果線の影響—

本多 明生（静岡理科大学情報学部）

本研究は、漫画やアニメーションで背景に使用されている効果線に注目し、背景の効果線（効果線なし、集中線、横の効果線、縦の効果線）が線画表情（加藤・山下（2016）の線画表情（喜び、悲しみ、怒り、驚き、中性、あいまい表情）の感情認知（喜び、悲しみ、怒り、驚き、嫌悪、恐怖）にどのような影響を生じるのかを調べた。実験の結果、背景に集中線を加えることには線画表情の驚きの感情認知を強める働きがあることが示された。

PS0007. 中国辺境の少数民族におけるトライポフォビアへの耐性

朱 思齊 (九州大学大学院人間環境学府)

佐々木 恭志郎 (関西大学総合情報学部)

姜 月# (雲南大学民族学と社会学学院)

銭 琨# (九州大学持続可能な社会のための決断科学センター)

山田 祐樹 (九州大学学基幹教育院)

円形集合体への不快感であるトライポフォビアは都市在住者を対象に 2010 年代から研究されてきた。そのためトライポフォビアは都市化が重要な役割を持つ現代の感情の可能性がある。そこで、本研究は中国の都市住民と僻地在住の少数民族間でトライポフォビアの強度を比較した。その結果、トライポフォビアは両群で生起したが、僻地群の方で非常に弱まった。ゆえに、トライポフォビアはライフスタイルの都市化をその一因とすることが示唆された。

PS0008. いわゆる「嫌韓」の近年の状況および関連する感情・認知の変化

ー日本人一般を対象とした 2017-2020 の連続 3 回調査から見えてくるものー

河野 和明 (東海学園大学 人文学部)

中村 真 (宇都宮大学 国際学部)

岩佐 和典 (就実大学)

今田 純雄 (広島修道大学)

2 回にわたり、20~60 代の一般の日本人 1000 名を対象として、最も嫌悪を感じる集団名とそれに対する否定的感情・認知を測定した(2017 年 2 月と 2019 年 8 月)。韓国(単独)を挙げる割合はこの 2 年間で約 4 倍に増加した一方、否定的感情・認知は減少した。続いて、アジア 4 カ国(中国・韓国・北朝鮮・台湾)に対する感情・認知の評定を行った(2020 年 1 月)。結果を基に近年の「嫌韓」について考察した。

PS0009. 働く女性を対象とした「輝く女性」に関するイメージ調査

浅井 雛代 (日本メナード化粧品株式会社 総合研究所)

森瀬 綾子 (日本メナード化粧品株式会社 総合研究所)

近年、女性の社会進出に伴って「輝く女性」という言葉が多く見かけられるが、具体的にどのような女性を指すのかは明確ではない。そこで、本研究では、働く女性を対象として、輝いて見える女性(他者)のイメージと、自分が輝いているときのイメージについて調査を行い、輝く女性の内面特徴と外見特徴について分析した。さらに、輝く女性のイメージについて因子構造を分析し、他の尺度の因子得点との関連性を検証した。

PS0010. スキンケアにおける満足感をもたらす肌感触について

森瀬 綾子 (日本メナード化粧品株式会社)

スキンケア化粧品を使用する上では、肌への効果が求められる一方、使い心地のよさや使用後の満足感などが重要視される。本研究ではスキンケア化粧品使用後の肌に着目し、特に「心が満たされる」感情を誘起させる肌感触について調査した。その結果、「やわらかい、しみこむ、ふっくら、ハリ」の4つの感触の影響が強く、さらにこれらの肌感触は、脳活動にも変化を生じさせていることがわかった。

PS0011. ボディペーパーの使用に関する心理尺度の開発 (1)

—気分状態尺度と皮膚感覚尺度の内容的妥当性, 因子の妥当性および内的一貫信頼性の検討—

鈴木 まや (関西学院大学文学部 応用心理科学研究センター)

片山 順一# (関西学院大学文学部 応用心理科学研究センター)

澤田 真希# (株式会社マンダム 技術開発研究所)

志水 弘典# (株式会社マンダム スキンサイエンス開発研究所)

大竹 恵子 (関西学院大学文学部 応用心理科学研究センター)

ボディペーパーの使用に関して気分状態や皮膚感覚の変動を時系列で検討することを目指して、それらを計測するための2つの心理尺度(気分状態尺度と皮膚感覚尺度)の開発を試みた。本発表では、心理尺度開発の(1)として、気分状態尺度と皮膚感覚尺度の項目作成および選定、内容的妥当性の検討、さらに因子の妥当性と内的一貫信頼性について検討した。その結果、両尺度は安定した因子構造と内的整合性を有することが確認された。

PS0012. 他者への再評価はどうして自身の精神的健康を促進するのか?: 脱中心化の媒介効果の検証

小林 亮太 (広島大学 / 日本学術振興会)

本研究では、他者への再評価と自身の精神的健康の関連を脱中心化が媒介するか検討を行った。大学生130名を対象に、2時点の縦断調査を実施した。結果として、他者への再評価と主観的幸福感の間には正の相関($r=.23, p<.01$)が認められ、その関係を脱中心化が媒介していることが示された(間接効果: $\beta=.11, p=.01$)。こうした結果は、他者への再評価を行うことで脱中心化が高まり、その結果、精神的健康が促進されることを示唆している。

PS0013. 母親とのエピソード想起にみる感情語の使用

—自尊感情の観点から—

岡谷 ゆい (名古屋女子大学)

本研究は、幼少期の母親とのエピソード想起において感情語がどのように使用されるのか、自尊感情の観点から明らかにすることを目的とした。女子大学生へ質問紙調査を実施し、自尊感情の高群・低群各 20 名を検証の対象とした。その結果、自尊感情の高群では母親に対するポジティブな感情や母親との楽しかった・嬉しかったエピソードが想起されたのに対し、自尊感情の低群ではネガティブな感情を伴うエピソードの想起が散見された。

PS0014. ボディペーパーの使用に関する心理尺度の開発 (2)

—気分状態尺度と皮膚感覚尺度の基準関連妥当性, 再テスト信頼性の検討—

大竹 恵子 (関西学院大学文学部・応用心理科学研究センター)

鈴木 まや (関西学院大学文学部・応用心理科学研究センター)

澤田 真希# (株式会社マンダム 技術開発研究所)

志水 弘典# (株式会社マンダム スキンサイエンス開発研究所)

片山 順一# (関西学院大学文学部・応用心理科学研究センター)

本発表では、ボディペーパーの使用に関して(1)で作成した心理尺度開発の続きとして、気分状態尺度と皮膚感覚尺度の基準関連妥当性と再テスト信頼性を検討した。各尺度の確認的因子分析を行い、因子的妥当性を確認した。日本版 PANAS と多面的感情状態尺度との関係から、ポジティブな感情状態との妥当な関連が示され、基準関連妥当性が確認された。再現性は一週間間隔で実施し、相関分析の結果から再テスト信頼性は高いと判断できた。

PS0016. 日本らしい風景を見たときの主観的情感の変化—日本人と在日中国人の比較—

菅原 大地 (筑波大学)

林 萍萍 (神戸大学/大阪商業大学)

インバウンド政策が推進され、これまで以上に日本の観光に関する研究は盛んになりつつある。日本の観光地や風景をみたときにどのような感情が生じるかについては研究が少ない。そこで、予備調査として、どのような風景を日本らしいと感じるか質的調査を行った。本調査として、予備調査をもとに作成した 8 本の映像について、日本人と在日中国人に視聴してもらい、視聴時に生じる主観的情感について 7 段階で回答を求めた。

PS0017. 日本感情心理学会員が考える「感情とは何か」(1)

ー感情＝情動なのかー

白井 真理子 (同志社大学 心理学部)

武藤 世良 (お茶の水女子大学 教学 IR・教育開発・学修支援センター)

中村 真 (宇都宮大学 国際学部)

感情研究者が「感情」をどのように定義しているのかを明らかにするため、日本感情心理学会員を対象とした Web 調査を行った。調査参加者 94 名に対し、感情と情動の差異について、18 項目に対する評定を求めた。その結果、感情と情動には、「機能的側面」といった共通に持ちうると思われる特徴が示された。一方、「主観的情感」は感情、「生理反応」は情動において、それぞれより優勢な特徴として考えられていることが示唆された。

PS0018. 対人ストレスの経験頻度が顕在的・潜在的シャーデンフロイデに及ぼす影響

片岡 春奈 (甲南大学人文科学研究科)

福井 義一 (甲南大学)

対人ストレス (対人葛藤・劣等・摩耗) の経験頻度が、質問紙で測定された顕在的シャーデンフロイデ (SF) と潜在連合テストで測定された潜在的 SF に及ぼす影響を検討した結果、対人葛藤は平均条件において、対人摩耗は有利条件において、それぞれ顕在的 SF を促進するのに対して、対人劣等は有利条件において顕在的 SF を抑制することが分かった。また、対人ストレスの経験頻度は全般的に潜在的 SF に影響しないことが分かった。

PS0019. 自己の感情や身体感覚に鋭敏であるほど共感性は高まるのか？

ーアレキシサイミア傾向と内受容感覚への感受性が主観的・客観的共感性に及ぼす影響ー

福井 義一 (甲南大学)

本研究では、自己の感情と身体感覚に対する感受性が主観的・客観的共感性に及ぼす影響について検討した。性別とアレキシサイミア傾向、内受容感覚への感受性を独立変数、主観的・客観的共感性の各尺度得点を従属変数とした重回帰分析の結果、感情と内受容感覚への感受性のどちらも低い場合にのみ、主観的共感性の共感的配慮の得点が低いのにに対して、感情や身体感覚に対する感受性は客観的共感性を予測しないことが分かった。

PS0020. 「手を拭く効果」および敏感自覚度が道德規範に及ぼす影響

—中学生 700 人調査における再現性の報告—

上原 智香子 (明治大学大学院 情報コミュニケーション研究科)

本報告は「洗淨剥離効果 (clean slate effect)」について中学生 700 人以上に 2 回調査を実施し、再現性が確認されたことの報告である。本調査は、敏感さが同効果に関わると仮定し、自己報告型調査票により敏感さを確認、「手を拭く」実験と道德規範との関係を確認した。結果、道德規範には敏感さが有意な影響を与えること、手を拭く効果が道德規範を高めることについて再現性が確認された。

PS0021. ユーモアスタイルに関する日中比較

—社会人の質問紙調査をもとに—

林 萍萍 (神戸大学/大阪商業大学 JGSS 研究センター)

面子を回復するには、中国人は日本人より、ユーモアを頻繁に使う傾向がある (林, 2018)。本研究では、ユーモアスタイルの日中比較を行うには、日中社会人を対象に、ユーモアスタイル尺度 (Martin ら, 2003) を評定させた。その結果、中国人は日本人より「自己高揚的ユーモア」「攻撃的ユーモア」を、日本人は中国人より「親和的ユーモア」を使うことがわかった。また、ユーモアスタイルと面子欲求、文化的自己観、自尊心との関連を検討した。

PS0022. 記憶力向上効果をもたらす学習前の感情の明確化

飯島 采永 (株式会社 NTT ドコモ 先進技術研究所)

瀧上 順也# (株式会社 NTT ドコモ 先進技術研究所)

本研究は学習における「記憶力」の発揮度と学習前の感情の関係性を明らかにすることを目的としている。学習者に特定の感情を生起させ、その後記憶力を測定するテストを実施することで、各感情状態における「記憶力」の発揮度を測定する実験を行った。実験の結果、記憶力を測るテストの得点が有意に向上したのは学習前に「興味」「喜び」「興奮」の感情が生起された場合であった。

PS0023. 他者への軽蔑が自尊感情の増加に及ぼす影響

福田 哲也 (流通科学大学)

他者の道徳的逸脱行為や知識の欠如により生じた対象への軽蔑が、自尊感情を増加させるのかを検討した。参加者には、他者の道徳的逸脱行為または知識の欠如の露呈をテーマとし、それぞれの有無を操作した4種類のシナリオのうち1種類を示した。シナリオテーマ別に、行為や欠如の有無を説明変数、軽蔑を媒介変数、シナリオ読後の自尊感情を目的変数とした媒介分析を行った結果、テーマを問わず間接効果は有意でなかった。

PS0025. 仮想的有能感と自己愛

一両者を構成する要素と他の諸変数との関連一

澄川 采加 (鹿児島大学大学院教育学研究科)

稲垣 勉 (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

島 義弘# (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

澄川・稲垣・島 (2019) は、有能感の4類型と自己愛の4類型は一定の対応関係があるものの、一部理論的な予測と異なることを報告した。これを受けて、本研究では両者の異同についてさらなる検討を行うため、大学生・短大生 277 名を対象とした質問紙調査を行った。具体的には、2つの類型を構成する他者軽視傾向、自尊感情、自己愛 (評価過敏性、誇大性) が他の諸変数 (共感性や NPI, 友人関係満足感など) にかかに影響するかを検討した。

PS0026. 顕在的・潜在的シャイネスと他の諸変数の関係

一文化的自己観、拒否回避欲求を中心に一

稲垣 勉 (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

澤海 崇文 (流通経済大学社会学部国際観光学科)

澄川 采加 (鹿児島大学大学院教育学研究科)

シャイネスの測定には、これまで質問紙などの自己報告尺度が広く使用されてきたが、近年は自己報告によらない潜在的測定法である Implicit Association Test も使用されている。本研究は大学生 58 名 (男性 24 名, 女性 33 名, 不明 1 名) を対象に、顕在的・潜在的シャイネスと文化的自己観、拒否回避欲求などとの関係を検討した。その結果、特に女性において、顕在的・潜在的シャイネスとともに、他の変数に対し同様の相関のパターンを示した。

PS0027. なぜタッピングタッチはセルフ・コンパッションを高めるのか？

—被受容感・被拒絶感との関連—

大浦 真一（東海学院大学）

福井 義一（甲南大学）

タッピングタッチ (TT) はセルフ・コンパッション (SC) を促進する (Nakagawa et al., 2019) が、その機序は未解明であった。SC は、被拒絶体験により阻害される一方で、被受容体験により促進されることから、本研究では TT 前後の被拒絶感と被受容感の変化量が SC の変化量に及ぼす影響を検討した。その結果、被拒絶感と被受容感の主効果が有意であり、TT による被拒絶感と被受容感の改善が SC の促進に寄与する可能性が示唆された。

PS0028. ネガティブな出来事に対する好奇心がストレス後へのストレス経験持続に及ぼす影響

金子 迪大（京都大学大学院）

尾崎 由佳#（東洋大学）

情動経験は日常生活では数時間以上持続することもある。この持続は情動喚起刺激に対する好奇心により予測されることが知られている。本研究では、ネガティブな出来事に対する好奇心の個人差が、ストレス後へのストレス経験を持続させることを 5 日間にわたる経験サンプリング法を用い検討した。その結果、ストレス後に時間が経過しても、好奇心が高い人ではストレス経験は持続し、好奇心が低い人ではストレス経験は低下した。

PS0029. トレーニングにより向上した表情模倣と表情変化に対する敏感さとの関連

—N170 を用いた検討—

谷田 林士（大正大学 心理社会学部）

情動表情をターゲット刺激、ニュートラル表情を標準刺激としたオドボール課題を用いて、ターゲットが呈示された際の事象関連電位 (N170) を測定し、対人場面における表情模倣との関連を検討した。先行研究 (谷田, 2019) では、表情模倣が全く生起していない参加者も含めての検討であったため、本研究では、表情模倣を上達させるトレーニングを実施し、向上した表情模倣の指標を用いて検討した結果、その関連性が示された。

PS0030. 対人場面の認知的解釈に対する愛着スタイルの影響

河合 風香 (福山市立大学大学院教育学研究科)

平野 晋吾# (福山市立大学教育学部)

山口 正寛 (大阪教育大学教育学部)

本研究では、愛着スタイルが対人場面の認知的解釈に与える効果について、大学生を対象に実験的検討を行った。実験群には幼児の泣き映像、統制群には加算課題を提示後、親子分離場面のストーリーを視聴させ、印象評定を行うよう教示した。印象評定の得点を従属変数として 2 群 × 愛着スタイルの 2 要因混合計画分散分析を行った。その結果、交互作用のみが示され、安定型と恐れ・回避型の印象評定において泣き映像の効果が見られた。

PS0031. 日本感情心理学会員が考える「感情とは何か」(2)

ーネットワーク分析の試みー

武藤 世良 (お茶の水女子大学 教学 IR・教育開発・学修支援センター)

白井 真理子 (同志社大学 心理学部)

中村 真 (宇都宮大学 国際学部)

感情研究者の「感情」の定義を明らかにするため、日本感情心理学会員を対象に Web 調査を行った。94 名の参加者が評定した感情と情動の定義的特徴の 18 項目に関して、感情と情動のネットワーク構造を検討した。その結果、(a) 生存に関わり、(b) 行動を動機づけ、(c) 適応的・対処的機能を備えているという 3 点が感情でも情動でも強く結びついていたが、全体的なネットワーク構造は感情と情動で異なる可能性が示された。

PS0032. 表情認知のフィードバック訓練が感情認知バイアスと否定的・肯定的感情に及ぼす影響

中井 和弥 (新潟こども医療専門学校)

福井 義一 (甲南大学文学部人間科学科)

本研究では、クラウドソーシングで募集した 299 名を介入群と統制群に割り当て、表情認知のフィードバック訓練が、感情認知バイアスと否定的・肯定的感情に及ぼす影響を検討した。分析の結果、介入群は統制群と比べて、訓練前後で表情の感情認知バイアスが変化し、怒りと喜びが合成された曖昧表情を喜びと判断する回数が増加した。また、介入の有無に関係なく否定的感情は増したのに対して、肯定的感情は減ったことが分かった。

PS0033. 感情を伴う発話音声に対する接近一回避反応の検討

池田 慎之介 (京都先端科学大学)

喜びか怒りの表情刺激を呈示し、ジョイスティックを傾けることで感情を回答させると、喜び表情には引く反応（接近）が、怒り表情には押す反応（回避）が優勢であるとされている。本研究では、言語内容が中立かつ口調が喜びか怒りを表す音声刺激を用い、同様の検討を行った。結果、喜び音声では接近が、怒り音声では回避が優勢であった。

PS0034. 日常生活用品の使用印象における色と香りの交互作用

－世代間における好みの差の検討－

姜 毅男# (東北大学)

藤井 孝子# (大王製紙株式会社)

瀬野 俊二# (大王製紙株式会社)

○坂井 信之 (東北大学大学院文学研究科)

本研究では日常生活用品において商品の色と香りの交互作用が、使用感の向上や使用後の気分の高揚感にどのような影響を与えるかということを検討した。実験には41名の女性（20代と30代）が参加した。実験刺激は4種類の色と4種類の香りの組み合わせを用いた。その結果、特定の色と香りの組み合わせは、使用後の高揚感の推定値に大きな影響を与えることが明らかになった。好み評定値においては世代間で差が見られることもわかった。

注) ○は責任発表者であることを示す。

PS0035. 新型コロナウイルス感染症に対する予防行動とその規定因

榊原 良太 (鹿児島大学)

大藪 博記# (鹿児島大学)

本研究は、新型コロナウイルス感染症に対して、人々がどのような予防行動を行っているのか、またいかなる要因がその予防行動を規定しているのか、広く一般サンプルを対象に調査を行ったものである。規定因として考え得る様々な変数との関連から、予防行動を促すためのヒントを探っていきたいと考えている。

PS0036. スポーツ競技場面におけるポジティブ感情の感情調節方略の類型化

相羽 枝莉子（北九州市立大学／九州大学大学院）

ポジティブ感情は、選手が試合で実力を発揮するために重要な役割を果たしている。感情調節研究領域で、ネガティブ感情を対象とした研究が多い中、本研究では、スポーツ競技場面におけるポジティブ感情の感情調節方略に着目した。選手が意識的に行うポジティブ感情の感情調節方略について調査し、感情調節によってどのような感情状態になることを志向しているか、といった「感情調節目標」の観点から、感情調節方略を類型化した。

PS0037. 臨床指導時の怒り感情と性差について

齋藤 義雄（国際医療福祉大学市川病院）

（目的）臨床指導時に生じる怒り感情の性差を明らかにすることと、怒りの一次感情を明らかにすることである。（方法）理学療法士 245 名（男性 167 名、女性 78 名）を対象としアンケートを行った。怒りの一次感情を調査し、怒り感情の性差を統計処理にて検討した。（結果）男性は学生指導で「落胆」、女性は学生指導で「嫌だ」に有意差が認められた。（考察）ジェンダーバイアスを払拭し、男女両者において怒りとしての攻撃行動が起こりうるものが推察された。

PS0038. 人を疑う目は人の本質の見極めをも見失う？

川口 めぐみ（東京未来大学こども心理学部）

第一印象で人を判断しても、その後の相手の言動により初期に抱いた印象や判断は常に書き換えられ変更されていく。本研究では、「人の本質」を見極める時に影響を与える感情的要因は存在するか探索的に検討を行った。結果、「人は基本的にいい人が多い」と思っている人ほど、人の本質を見極められる可能性があることがわかった。人を疑うことは相手の良さを見落とすだけでなく、相手の本質を見落とすことにもつながるかもしれない。

PS0039. 不道徳行動へのモラルライセンシング効果における行為主体の影響の検討

古川 善也 (広島大学人間社会科学研究科)

同じ不道徳行動であっても行為主体が自分であるか、他者であるかによって行為に対する許容度に変化する二重基準的な評価は偽善(moral hypocrisy)の一形態である。不道徳行動に対するモラルライセンシング効果が自分だけでなく、他者の行為の評価に対しても影響を及ぼしているかを検討するために、偽善のパラダイムを用いた研究を実施した。また、偽善に関する Du et al. (2019)の知見を踏まえて罪悪感傾向を調整変数として測定した。

PS0040. Ambiguous Scenario Test による抑うつに関連した解釈バイアスの測定

杉田 明日香 (西梅田こころとからだのクリニック)

吉村 晋平# (金沢大学人間社会研究域)

現代社会において深刻な社会的問題であるうつ病をテーマに、その発生に関わる心理学的要因について研究を行った。抑うつの中核的要因には物事をネガティブに解釈する傾向(解釈バイアス)があると言われている。本研究では、抑うつの解釈バイアスを測定する尺度である曖昧な状況に対するシナリオ課題 (AST-D2) の日本語版を作成し、抑うつと抑うつの解釈バイアスの関連と、不安との弁別について検討した。

PS0041. 他人を「下げる」が妬みにつながる人々

—実体的知能観による調整効果—

服部 陽介 (京都先端科学大学人文学部)

自分よりも優れた結果を得た他者を見た場面を想像した後に、自分を他者と同等の垂直的位置に引き上げる動作をした群と、他者を自分と同等の垂直的位置に引き下げる動作をした群を比較した。その結果、自己の能力は固定的なものであるという信念である実体的知能観が強い個人でのみ、他者を引き下げる動作により悪性妬み感情が強まることが示された。一方、優れた結果を得た理由についての記述内容には、明確な差が見られなかった。

PS0042. 警告音は視覚性注意課題を妨害するか？

松本 絵理子（神戸大学大学院国際文化学研究所）

警告音は自動的に注意を捕捉し、緊急性・逼迫性を認識させる役割を持つ。しかし、タスク状況により警告音の聞き落としや気付きの遅れが生じる場合がある。本研究では視覚性注意課題を遂行中に課題非関連に数種類の警告音をランダムなタイミングで呈示した場合における注意制御について、視覚課題の負荷と警告音の音量を操作して検討を行った。その結果課題負荷や警告音の呈示タイミングにより視覚課題への妨害効果に違いが認められた。

PS0043. 注意の分割を伴う気晴らしが反すう後の注意視野に及ぼす効果の検討

石川 遥至（早稲田大学文学学術院）

近年、反すうの生起プロセスとして注意視野の狭まりが指摘されている。本研究は、反すう対象を想起しながら無関連課題を行う注意分割気晴らしが、Global-Local 課題で測定される注意視野に及ぼす効果を検討した。反すうの喚起後、注意分割気晴らしを行う場合と通常気晴らしを行う場合での注意視野の変化を比較したところ、高反すう傾向者において、注意分割気晴らしは通常気晴らしよりも注意視野の拡大に寄与することが示された。

PS0044. 強み受容尺度の作成と妥当性、信頼性の検証

森本 哲介（兵庫教育大学）

高橋 誠（埼玉学園大学 人間学部 子ども発達学科）

ポジティブ心理学的研究において、自己受容やセルフコンパッションをはじめとして、自己のネガティブ（あるいはニュートラル）な側面を受容することに関する概念が提唱されてきている。しかし、自己のポジティブな側面を受け入れることについての概念は、これまであまり注目されてこなかった。そこで本研究では、強みの受容についてのインタビュー結果に基づいた「強み受容」尺度の作成を試み、その信頼性と妥当性を検証する。

PS0045. 高齢者の反すうと関連する認知機能領域の検討

小川 将 (東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム)

鈴木 宏幸# (東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム)

藤原 佳典# (東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム)

本研究ではうつ傾向者を除いた地域在住高齢者の反すうと各認知機能領域との関連を検討した。反すう時に注意の切り替えを問う主観的指標「ネガティブな反すうのコントロール不可能性 (UNR)」が、客観的指標である認知機能検査の注意機能と関連していた。一方、「反すう傾向」や記憶機能・言語機能との関連は示されなかった。注意機能の低下においては、うつ傾向にあることよりも、UNRの方がより強い関連要因である可能性がある。

PS0046. シャーデンフロイデの喚起要因の検討

－悪性妬みと公正世界信念に着目して－

相羽 将智 (広島大学)

坂田 桐子# (広島大学)

本研究では、シャーデンフロイデの喚起要因を検討することを目的とした。不公平な手段で内定もらった架空の人物 A さんが、自身の責任で内定が取り消される“責任あり条件”と A さんに内定取り消しの責任がない“責任なし条件”を作成し、その差異を検討した。その際、公正世界信念を強く抱いており、特性的に悪性妬みを感じやすい人は他者の責任性のある不幸により強くシャーデンフロイデを喚起すると予想して分析を行った。

PS0047. 刺激欲求傾向と気分変化との関連性に関する実験的検討 (1)

－感情喚起画像を用いた予備的検討－

佐藤 俊彦 (長野大学社会福祉学部)

快、不快、および中立の感情喚起画像、各 40 枚を 1 枚ずつ観察し、直後の気分を数値で評定する実験を行った。刺激欲求尺度・抽象表現項目版 (SSS-AE) の得点に基づいて参加者を 4 群に分け、気分評定値を比較した結果、不快画像観察後の感情価 (快・不快) には群間に有意差を認めなかった一方、不快画像観察後の覚醒度 (興奮・鎮静) に関して、スリルを求める傾向に関連した TAS 尺度の上位 25% 群は、下位群より有意に小さいことがわかった。

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393
http://www.kitaohji.com

感情心理学ハンドブック

日本感情心理学会企画 内山伊知郎監修 A5上製・472頁・本体8000円＋税 感情に纏わる様々な研究を渉猟し現時点の到達点を示す。個人内過程、個人間の差異、さらに社会との関わり、という観点から内容を構成。自己、身体、脳、認知、発達、進化、文化、人間関係、コミュニケーション等のテーマを扱う。

装いの心理学

一整え飾るころと行動一 鈴木公啓編著 A5・296頁・本体2700円＋税 身体装飾・変工の心理に関する入門テキスト。第1部では、化粧、衣服、ピアス、いれずみ、美容整形、瘦身、毛髪などを取り上げ、その装いがどのような意味・意義を有するのかについて、心理学の研究成果をバランスよく解説する。第2部は、コスプレや化粧療法など、装いに関連するホットなテーマを紹介する。

人とペットの心理学

一コンパニオンアニマルとの出会いから別れ一 濱野佐代子編著 A5・196頁・本体2300円＋税 人はペットとの関係から、心理的・身体的・社会的に様々な恩恵を享受している。また、直接的に暮らしをサポートしてもらっている場合もある。本書はペットと人生を共にする人、およびその関係性を維持・発展させていくことを願う人のために編まれた。

ワーキングメモリの探究

一アラン・バドリー主要論文集一 A. D. バドリー著 佐伯恵里奈・齊藤 智監訳 A5上製・432頁・本体5900円＋税 バドリー教授自らが厳選した論文を取録。WMと長期・短期記憶、あるいは注意の働きとの関係など、今なお論争の最前線にある問題について、第一人者がどう考察を進めてきたのかを辿り、その研究の全体像を窺い知ることができる。

嫌悪とその関連障害

一理論・アセスメント・臨床的示唆一 B. O. オラタンジ・D. マッケイ編著 堀越 勝監修・今田純雄・岩佐和典監訳 A5・340頁・本体3600円＋税 「嫌悪」という情動は、強迫性障害や動物恐怖症等の精神疾患を理解する上で、欠かせない要素でもある。本書は、その基礎研究から、精神疾患との関係、治療に関する研究まで、網羅的に解説。

感性認知

一アイステアシスの心理学一 三浦佳世編著 A5・228頁・本体3400円＋税 感性のさまざまな現れを、知覚心理学あるいは認知心理学の立場から、実証的データに基づき検討。感性とは何かについても考察。日常生活においてなじみ深い事象や人間の生活を豊かにしてくれる感性表現を通して、人間の知覚や評価の基盤を探る。

道徳教育はこうすれば(もっと)おもしろい

一未来を拓く教育学と心理学のコラボレーション一 荒木寿友・藤澤 文編著 A5・288頁・本体2600円＋税 道徳科を中心に据え、教育学、心理学、教育実践の立場から、教室場面において何が実践できるかについて詳説。道徳教育のさらなる発展を目指す。具体例として計15本の学習指導案を掲載。

新・動機づけ研究の最前線

上淵 寿・大芦 治編著 A5・240頁・本体3200円＋税 好評の既刊書から15年を経て、この間の膨大な知見の集積をベースに新版として登場。社会文化的なアプローチや発達の観点も織り込みつつ、達成目標理論の細分化や自己決定理論の進展に伴う実証研究、さらには学習観の変遷に伴う動機づけとの関係など、最新の研究成果を紹介する。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ **心理学と仕事** (全20巻)

シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・約160～220頁・予価2000～2600円＋税

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |



一冊の本との確かな出会い

さまざまなかたちで「本」と「人」が会う場所がここにあります。

 **紀伊國屋書店**
www.kinokuniya.co.jp

クレド岡山店
エブライ津高店
神戸店
西神店
加古川店
川西店

〒700-0821 岡山県岡山市北区中山下 1-8-45 NTTクレド岡山ビル5F
〒701-1145 岡山県岡山市北区横井上 83-3 エブライ Okanaka 津高3F
〒651-8511 兵庫県神戸市中央区小野柄通 8-1-8 そごう神戸店新館5F
〒651-2273 兵庫県神戸市西区糞台 5-9-4 そごう西神店5F
〒675-0065 兵庫県加古川市加古川町篠原町 21-8 ヤマトヤシキ加古川店6F
〒666-0033 兵庫県川西市栄町 11-1 モザイクボックス4F

086-212-2551
086-251-6811
078-265-1607
078-990-3573
079-427-3311
072-740-2622

意外にタフなパーソナリティーが
みえてくる。
読みが深くなる…PC効果。

システム化された新世代のエゴグラム

PCエゴグラム[®]

PC 透過性調整力(Permeability Control Power)とは

五つの自我状態を状況に応じて適切に切り替え駆使する力。
透過性調整力を見ることで、従来のエゴグラムより一層
「機能分析」のツールとして役立ちます。

PCエゴグラム **Ⅰ型** (診断タイプ)

PCエゴグラム **Ⅱ型** (システムタイプ)

〈お問い合わせ・資料請求先〉



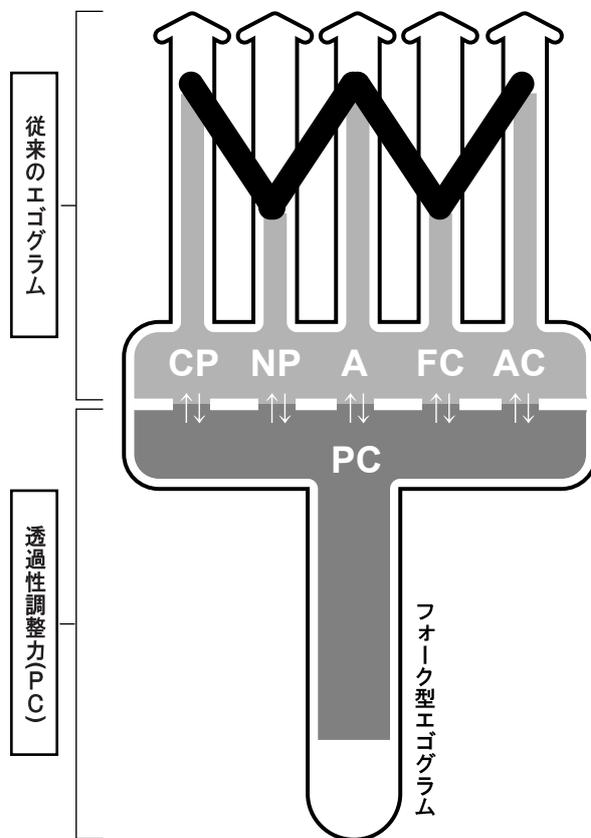
to-be

すべての人に質を—生命讃歌

適性科学研究センター

〒700-0016 岡山市北区伊島町1-3-2
TEL:086-256-3690代 FAX:086-256-3691

PCエゴグラム機能状況図



心理学概論

◎ヒューマン・サイエンスへの招待
松田幸弘 編著

必要な基礎的知識をコンパクトに整理し、公認心理師などの資格取得にも役立つ入門書。
2500円

夢のフロンティア

◎夢・思考・言語の三元論を超えて
マーク・J・プレッツシュナー 著
鈴木健一 監訳 / 小池哲子 訳
夢は人間の心理や脳について何を語り、何に貢献するのか。
3600円

人工感情 ◎善か悪か

福田正治 著
AIはどのように進化していき、人間とどのような関係をつぶすのか。神経行動科学者である著者が「感情」という視点から解きほぐす。
1800円

尊敬関連感情の心理学

武藤世良 著
敬愛、心酔、畏怖、感心、驚嘆——誰かを尊敬しその人と関係を築いていくことは人にどのような影響を与えるのか。実証的研究から迫る。
10500円

社会規範はどのように迷惑行為に影響を及ぼすのか

◎記述的規範と命令的規範の相違と注目からのアプローチ
高木 彩 著
実証的に迷惑低減に挑む。
5500円

注意の生涯発達心理学

坂田陽子・日比優子・河西哲子 編
注意のさまざまな認知機能を生涯発達の切り取っていく。労作。視覚探索がどのように形成され、そしてそれがどのようにして欠落していくか。
3000円

はじめての心理学概論

◎公認心理師への第一歩
古見文一・小山内秀和・樋口洋子・津田裕之 編
コンパクトながら基礎的内容を網羅。各章前半は基礎編、後半で最新知見をエキサイティングに紹介。
2200円

触覚の心理学

◎認知と感情の世界
田崎權一 著
触覚から改めて精神・教育・医学・芸術の世界を眺め、触覚の科学と人間生活・文化との関係を考察する。
2500円

情念の継承

◎感情記憶と「型」の発見
福田正治 著
古典芸能や芸術、工芸において人間の情念はどう継承されるのか？ 心理学や脳科学の観点から論じる。
1600円

感情制御の精神生理学

◎不快の認知的評価
手塚洋介 著
代表的理論やモデル、ネガティブ感情を扱った実験を通して、認知的評価の感情制御機能について探究。
4800円

教師のための説明実践の心理学

山本博樹 編著
わかったつもりを放置することなく、生徒・教師双方の説明活動を見直しその質の向上を図る。
2300円

公認心理師のための説明実践の心理学

山本博樹 編著
公認心理師の説明責任とは何か。公認心理師が各分野・各領域で要請される説明とその質について提言。
2000円

日本感情心理学会第 28 回年次学術大会

賛助団体ご芳名

協賛・広告

株式会社 北大路書房
株式会社 紀伊國屋書店
株式会社 適性科学研究センター
株式会社 ナカニシヤ出版

大会開催助成

就実教育心理学会

(50 音順)

本大会の開催にあたり、上記の諸団体より多大なご支援を賜りました。
ここに、ご芳名を記して感謝の意を表します。

2020 年 6 月

日本感情心理学会第 28 回大会実行委員会

委員長 岩佐和典

日本感情心理学会第 28 回大会実行委員会

委員長	岩佐和典 (就実大学)
顧問	山本 力 (就実大学)
副委員長	石原みちる (就実大学)
事務局長	永田 忍 (就実大学)
大会準備委員	原奈津子 (就実大学) 山田美穂 (就実大学)
	鎌田雅史 (就実短期大学) 井芹聖文 (就実大学)
	堀田裕司 (就実大学) 林 秀樹 (就実大学)
	坂元優太 (就実大学)

〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原 1-6-1

就実大学 教務課分室内

jsre28th@gmail.com